

流通BMS導入事例

～業務のスピードアップと工数削減～

2009年 11月27日
株式会社ハローズ

- 1. 会社概要**
- 2. 沿革**
- 3. 導入の背景・目的**
- 4. 流通BMS導入のきっかけ**
- 5. システム概要**
- 6. 導入までの作業**
- 7. 導入効果**
- 8. まとめ**

1. 会社概要



- 【会社名】** 株式会社 ハローズ
- 【本社所在地】** 広島県福山市南蔵王町6丁目26番7号
- 【本部所在地】** 広島県福山市神辺町川北1435
- 【創立】** 1958年10月
- 【資本金】** 11億6762万円
- 【売上高】** 630億円（2009年2月期）
- 【事業内容】** 食品スーパーマーケット業
- 【店舗数】** 44店舗
(広島県19店舗、岡山県22店舗、香川県3店舗)

2. 沿革

- 1990年 EOS、POSシステム導入

- 1994年 24時間営業開始

- 1996年 システム入替、社内オープンシステム導入

- 2001年 本部移転、物流センター稼動
(青果物流、チルド物流)

- 2002年 JASDAQ市場に株式を上場

- 2003年 ドライ共配センター稼動

3. 導入の背景・目的

当社の抱えていた課題

- ① 手書き伝票が多く入力業務の負荷が大きい
- ② 既存EOS (JCA) の機器老朽化
- ③ 店舗数の増加に伴いデータ伝送時間増加
- ④ 月末の請求と支払の照合業務に工数がかかる
- ⑤ 内部統制対応

2009年 新EDIシステム導入

1. 伝票レスの実現による業務工数削減
2. 月次決算の早期化
3. データ連携スピードアップ

4. 流通BMS導入のきっかけ

1. データ連携スピードアップ

- 出店増加に伴うデータ量増加により、データ連携時間が増加し、取引先様の出荷時間に影響が出る
→ 流通BMSの導入による**伝送スピードの向上**

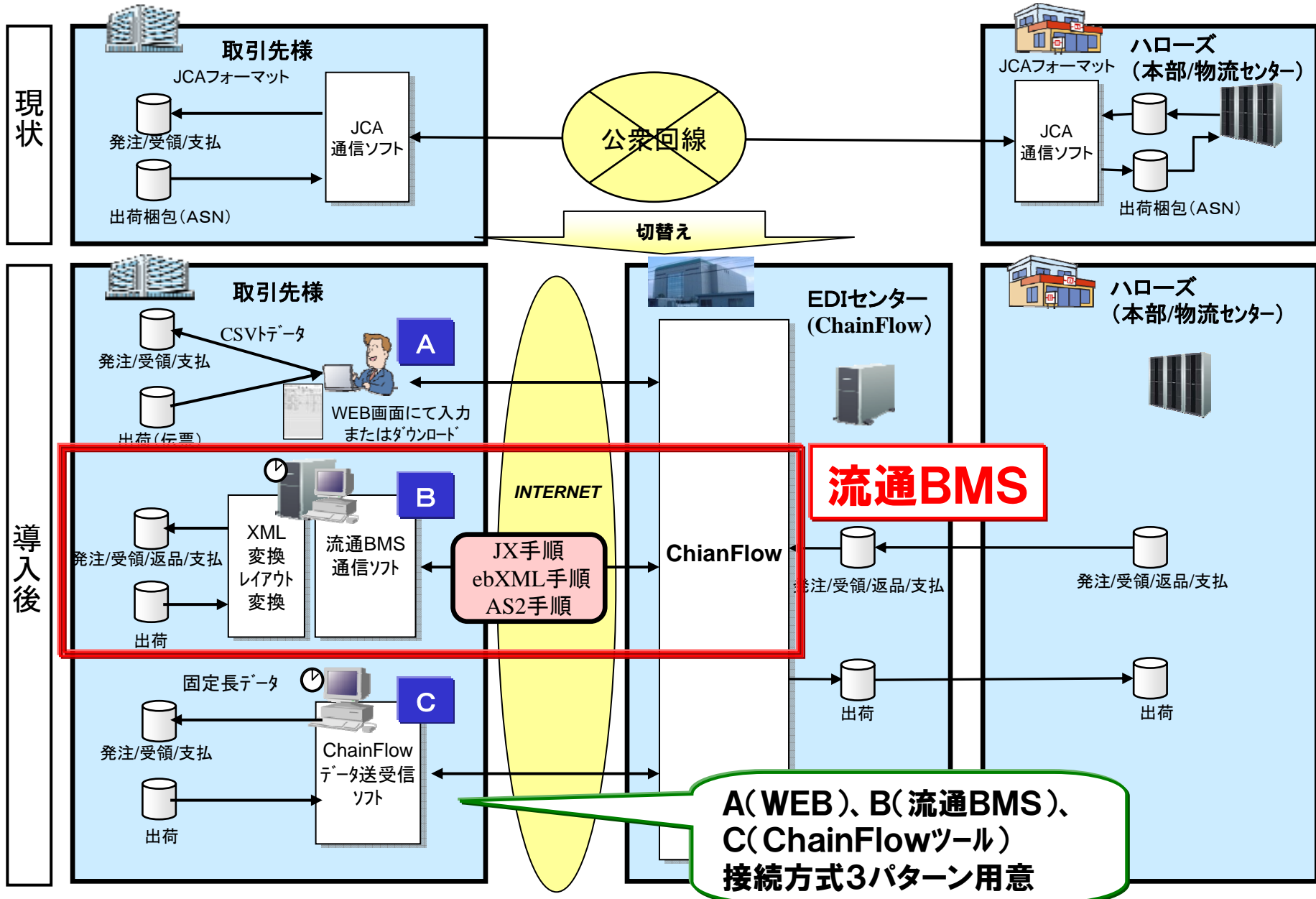
2. JCA終焉への対応

- JCA機器老朽化・サポート終了によるJCA撤廃
→ **JCAに変わる次期通信手順の確立**

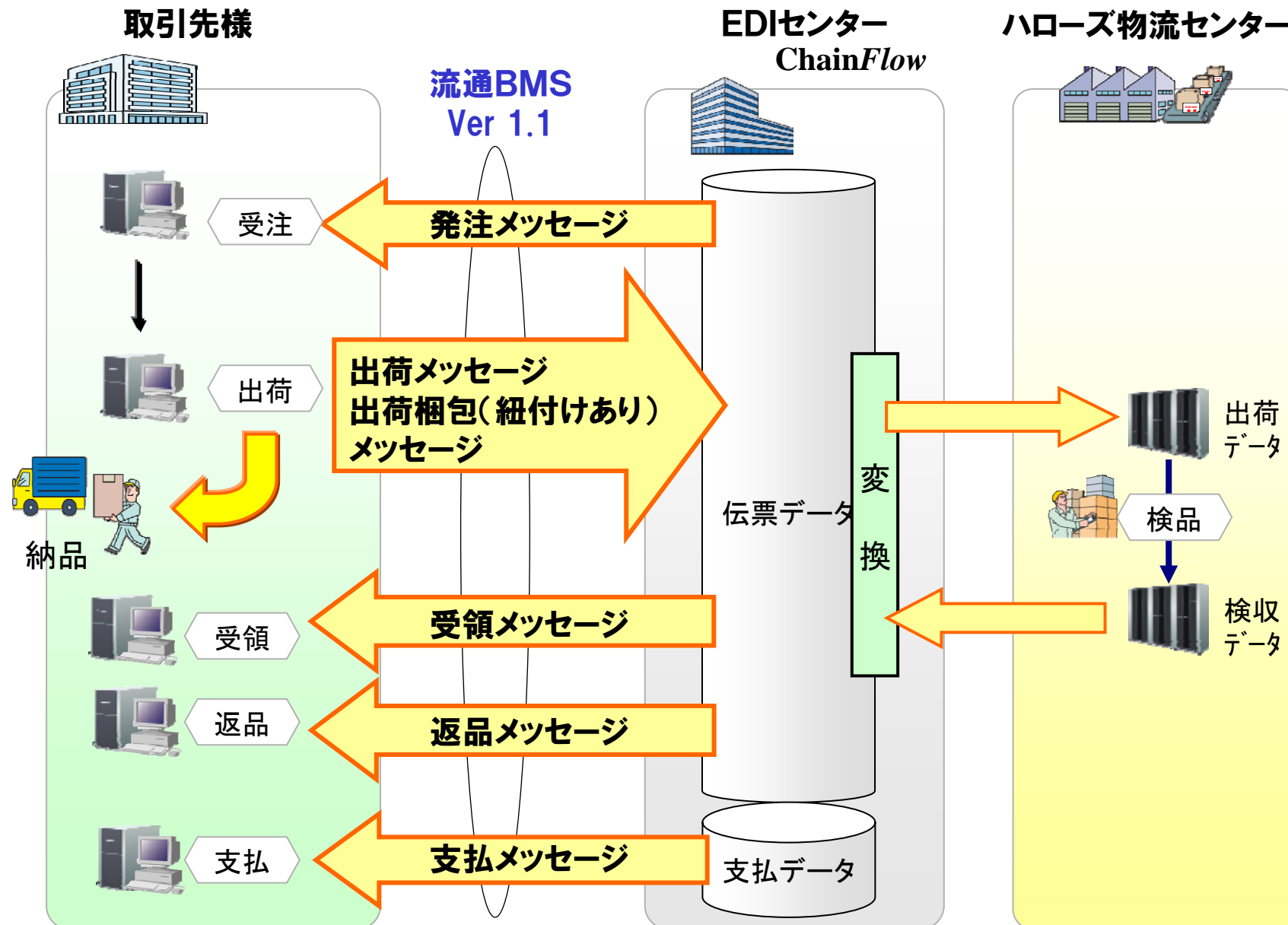
3. 物流センターデータ連携による出荷精度向上

- 取引先様からの出荷データ(伝票／梱包紐付けあり)を物流センターへ連携する
→ 出荷データを利用した検品で**出荷精度向上**

5. システム概要(1) EDIシステム全体概要



5. システム概要(2) 当社の流通BMS



6. 導入までの作業(1)

システム要件確定

約6ヶ月

- ルートセールス・経費運用検討、物流システム連携検討 等

社内への説明会

延べ12回

- 本部・各店舗への説明

取引先様への説明会

延べ4日間

- 導入説明会1回、操作説明会1回 × 12セット



4種類のテスト

約2ヶ月

- システム単体、連携 (基幹→EDIセンター→取引先)
- 取引先様の操作練習 (流通BMS、画面操作)
- 取引先ASNデータ (特に出荷梱包紐付け有データ)
- 物流センター内の検品などの運用テスト
(取引先ASNデータを使用)

6. 導入までの作業(2)

導入パターン別取引先様数

※2009年11月現在

A: WEBEDI : 約 210社
B: 流通BMS : 約 80社
 (うち JX手順 : 約 45社)
 (e b XML手順 : 約 35社)
 C: 固定長ファイル : 約 30社
 (ChainFlow独自フォーマット)

予想以上の取引先数
 →流通BMSの浸透
 を実感

導入スケジュール

1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	
A: 35社	A: 110社	A: 27社	A: 29社	
B: 29社	B: 26社	B: 10社	B: 10社	(以降順次展開)
C: 20社	C: 14社	C: 1社	C: 3社	

	10月					11月				12月					1月				2月	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2
導入説明会		■																		
操作説明会										■										
取引先様準備			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
テスト															■	■	■	■		
本稼動																				■

6. 導入までの作業(3)

導入するにあたり考慮した点

(1) 社内への説明

- ① 店舗直送商品の店舗で確定することへの理解
- ② 上記伝票が遅れてくる場合の対応(ルート・経費等)

→店舗へ繰り返し説明することで対応

(2) 取引先への導入フォロー、テスト対応

- ① 取引先が流通BMSを利用してくれるか不安

→インストールからフォーマット変換までをセット商品として
流通BMS通信ソフト(JX)を導入サポート

- ② 説明会参加者と作業担当者が違う場合、情報が正しく伝わらない。質問への対応時間が増加
- ③ 300社全てに対し、操作テスト・運用テストを実施
- ④ 特に出荷梱包(紐付けあり)の場合、センターでの本番同等のテストが必要

→開発元・現地SEの協力が不可欠

7. 導入効果

(1) 伝票レスの実現

手書き伝票の削減により経理業務の省力化を実現
→ **12万枚／月**あった伝票が、**1万枚／月**にまで削減

(2) 月次決算の早期化

請求レスによる照合作業軽減により月次決算の早期化を実現
→ 月次決算が**3日／月**短縮

(3) データ連携スピードアップ

インターネット利用により、データ連携スピードの大幅アップ
→ 従来のJCAと比較して**20分の1**の伝送スピード

8. まとめ

取引先様とのデータ交換率を高めることで、
双方の業務改善につながる。

→取引先様との協業手段のひとつとして、
流通BMSは必須。

【今後の計画】

- ① 新DCセンターの稼動による物流体制の整備
預かり在庫の発注メッセージ送受信
- ② 本部入力伝票3%→1%以下へ
- ③ 月次決算の更なる短縮

